

Beautiful nature is our treasure

とくしま

徳島の海を守れ

だい

さく

せん

大作戦

しぜん

わたし

たからもの

美しい自然は私たちの宝物



まえがき

徳島は美しい自然の宝箱

徳島県には、世界に誇れる美しく素晴らしい自然がたくさんあります。

山々に広がる深い森へ雨が降り、その水は土の栄養と共に吉野川など大小さまざまな川へと流れ、それが私たちの飲み水となり、野菜を育てる水となり、そして、たくさんの魚たちを育てる水となります。このように山と海が川でつながり、私たちは水という大きな循環の中でたくさんの生き物と共に生きています。

一度失われてしまった自然を元に戻すには、50年、100年という長い時間がかかります。だからこそ、この自然を私たちだけではなく、次の世代へ受け継ぐためにも大切にしていきましょう。



エダミドリイシの
群生に集まる

ソラスズメダイ

体が青く
小さい魚たち

エダミドリイシの群生

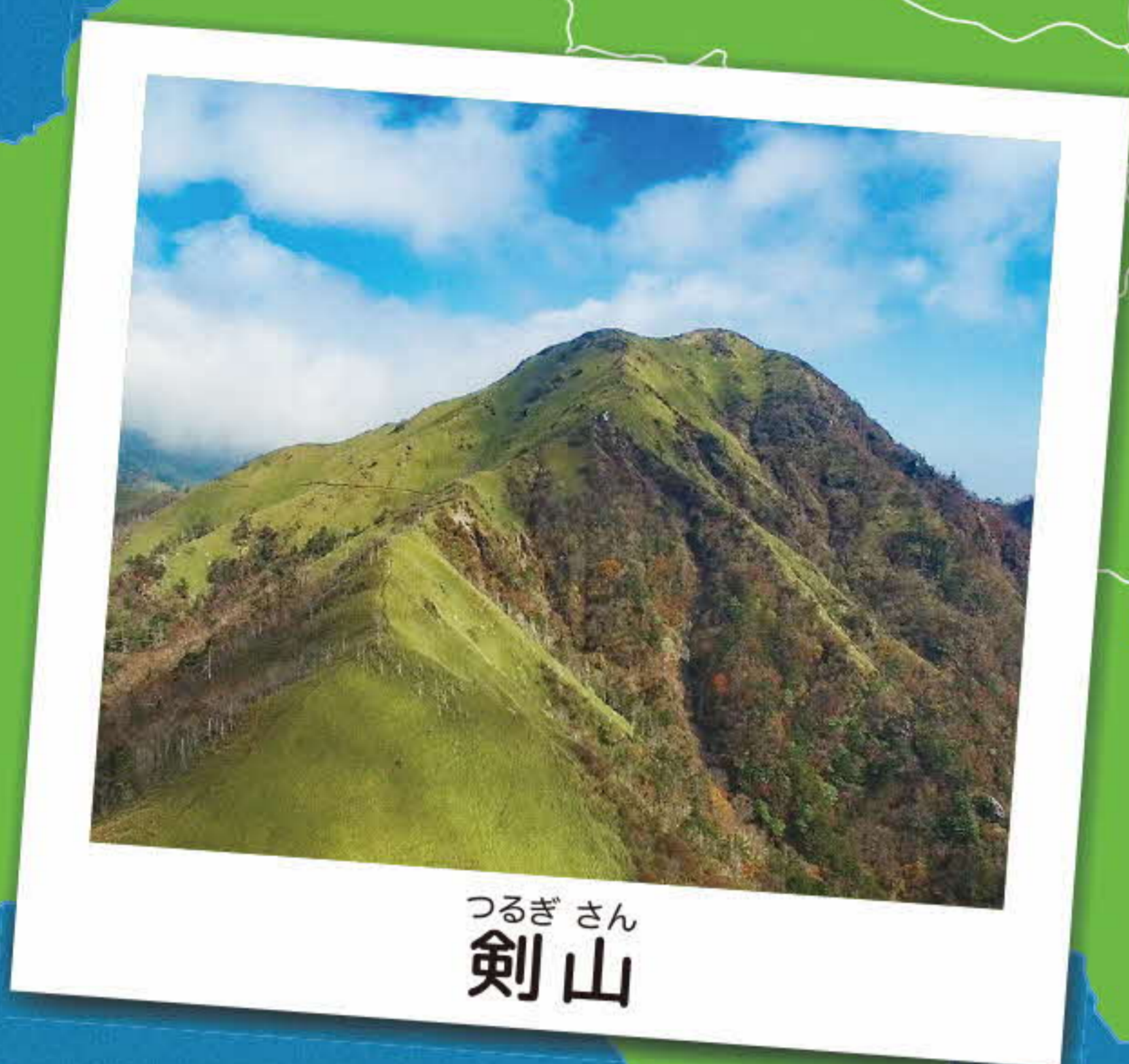
徳島県海陽町には、サンゴの一種であるエダミドリイシの群生地があります。ここにはたくさんの魚たちが生活しており、豊かな海であることを表しています。

しかし、近年は様々な環境の変化によりエダミドリイシが減っていることから、地元の小学校では移植体験を行うなど、エダミドリイシを守る活動を続けています。

産卵の様子→



とくしまけん しぜん
徳島県の自然



わたし す とくしまけん
私たちが住む徳島県には
こんなに たくさんの
美しい自然があるのね！

ほかにも もっとたくさんの
美しい自然があるんじょ



アメリカちゃん

すだちくん

海が大変なことになっている！

海洋ごみとは

今、海はたくさんのごみであふれています。それらは、生活から出たごみや自然から出たごみであり、山や街、そして、海からなど、様々な要因で大海原へ流れ出てしまったものが海洋ごみとなります。海洋ごみは海岸へ漂着することがあるため、海岸清掃を行うことで、ごみの種類や数の分析、発生した場所の推理をすることができます。



ずっと昔から漂い続けている物もあるんじゃないよ

色々な海洋ごみがあるのね！



令和4年度 徳島県が調査した海洋ごみ

『人の生活から出たごみ』ランキング

| | | | |
|-----|--------|-------|--|
| 1 | プラスチック | 88.5% | |
| 2 | 天然繊維、革 | 4.7% | |
| 3 | ガラス・陶器 | 2.3% | |
| 第4位 | ゴム | 2.1% | |
| 第4位 | 金属 | 2.1% | |

徳島県が、3つの海岸に漂着しているごみを調査した結果、人の生活から出たごみのうち、「プラスチック」が圧倒的に多いことがわかりました。このプラスチックの中には発泡スチロールやペットボトルなども含まれています。

とくしま けん かい しよう
徳島県で見つけた海洋ごみ

とくしま けん せ と ない かい たい へい しよう めん た し ゅ た よ う かい しよう で あ
徳島県は瀬戸内海と太平洋に面しており、多種多様な海洋ごみに出会うことができます。
さあ どんなものがあるのか見ていきましょう。

人の生活から出たごみ



Q クイズ



A

B

どっちが古いと思う？

※答えはページの下にあるよ

し ぜん
自然から出たごみ



き けん
危険なごみ

ゼツタイさわってはダメ！



答え

かん の 飲み口 を 見 比 べ る と 形 が 違 う こ と に 気 が つ き ま す 。

プルトップ式

正解は

A



しょう み き げん
賞味期限は
1986年！

B は... スティオンタブ



しょう み き げん ふ めい
賞味期限は不明だ
が今の缶に使われ
ているタイプ

サビているのはスチール
という材質だから

この缶のように、何年も海を漂ったり、海岸に落ちていたごみがたくさんあります。私たちが拾わなければ、この先何年もごみが海に存在し続けることとなります。

かいよう 海洋ごみはどこから来てどこへ向かうのか

海へ流れ出たごみは世界中を
ただよつづ 漂い続けるんじよ



海のごみは
りくち 陸地からも
来ているのね

海の見えない遠い陸地でも
雨風によってごみは川へ、
そして海へ流れていくよ



ごみをそのままに
して帰る

す ぽい捨て

ふほうとうき 不法投棄

かんりぶそく 管理不足の山から
流れ出た木

かんりぶそく 管理不足のごみ

海で遊んだ人が出したごみ

海で遊ぶことができなくなる

青い海に白い砂浜、そんな美しいビーチで遊ぶことを想像
するとワクワクしませんか？

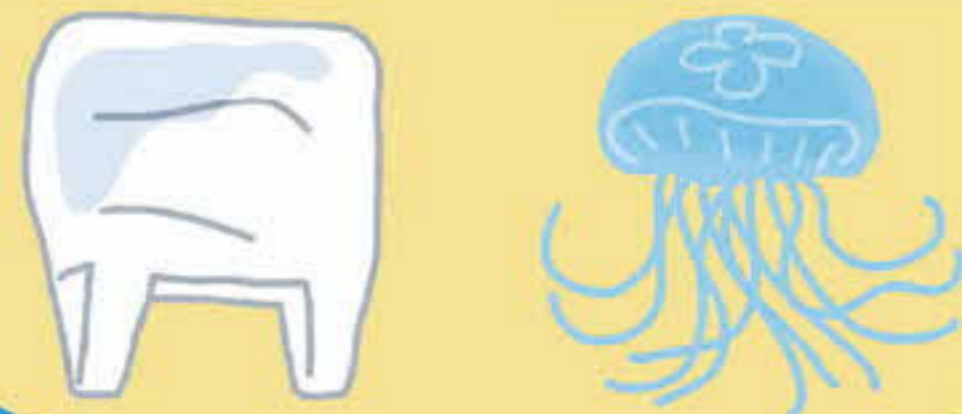
しかし、海洋ごみはそんな場所も一変させてしまいます。

生き物への影響

海洋ごみをエサと間違えてしまうことは
もちろん、体に引っかけたり身動きが取れ
なくなることもあります。また、キレイ
好きなウミガメは、ごみだらけの海岸で
は卵を産むことを諦めてしまいます。



ウミガメにとって
どっちも同じに見える



処分が大変

多くの海洋ごみは、人の手で拾うしか
なくすることができません。そのため、
たくさんの人数と労力、そして道具が
必要になります。さらには、本来であ
ればリサイクルできるごみも、海水や
付着物によりリサイクルができず、
処分します。当然、
その処分には運送
費や処分料など、
たくさんのお金か
かります。



海洋ごみの何が問題なのか

地球のほとんどをおおう広い海ならば、ちょっとのごみでも大丈夫かも？

そんなことは決してありません。今も大海原を旅する海洋ごみたちは、あるごみは海岸へ漂着し、あるごみはエサと間違えられて海の生き物のお腹の中へ。そして、海の底へ沈むもの、粉々に砕けてマイクロプラスチックになるものなど様々です。このまま海洋ごみが発生し続けると、いつの日か海は魚よりもごみの方が多くなると言われています。海からの恵みを受けて生きている私たちが、一緒に解決へ向けて取り組むべき課題なのです。

山からも海洋ごみの原因がやってくる

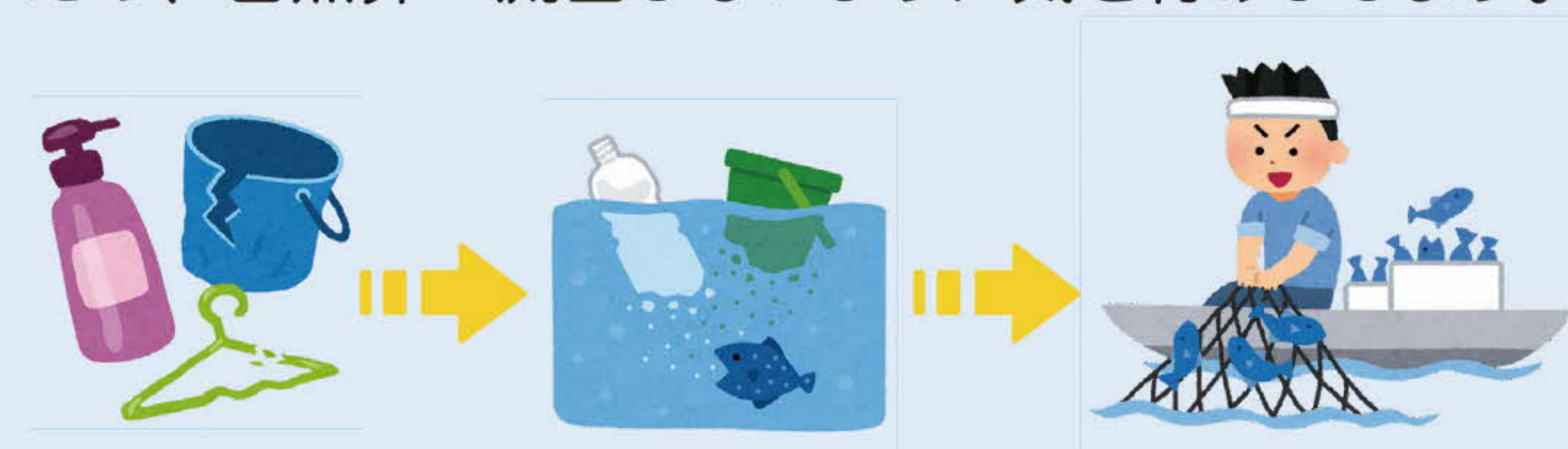
私たちが住む徳島県には大小様々な川が流れています。

陸地にある管理されていないごみは、雨や風により川へと流され、それが結果的に海へと流れて、海洋ごみになります。海洋ごみは海が見えないような陸地からも、川によって運ばれてくることを覚えておきましょう。



マイクロプラスチックと海のこれから

紫外線や波によって5ミ以下に細かく砕けたプラスチックごみを「マイクロプラスチック」と言います。これらは回収が難しい上に、魚たちがエサと間違えて食べてしまうことから、解決が急がれている課題です。プラスチックは私たちの生活に欠かせない物ですが、自然に分解されない性質であるため、自然界へ流出しないように気を付けましょう。



人工芝や服の糸くずからもマイクロプラスチックが出ているよ



生活への影響

港に海洋ごみが溜まっていると船のスクリューに絡まったり、衝突するなどして安全に航行できなくなるほか、定置網に絡まったりして漁師さんを困らせています。



世界への影響

海の水は大きな潮の流れにより世界中を旅しています。そのため、海洋ごみはもしかしたら遠い外国にまで行ってしまふかもしれません。

徳島の海を守れ大作戦！

6つの取り組み

1 ごみは分別してきちんと捨てよう！

ごみは分別してごみ箱へ。ポイ捨ては絶対にやめましょう。また、海水浴や山でのキャンプ、バーベキューの時は、事前に家や車の中でお菓子等を袋から出して、タッパーやチャック付きの袋へまとめるようにして、ごみを持ち込まない工夫をしましょう。



2 ごみを減らす工夫をしよう！

マイバッグやマイボトルを活用して使い捨てを減らしましょう。なるべく過剰包装していない物を買きましょう。まだ使える物を大切に、すぐに新しい物を買わないようにしましょう。

リデュース（ごみの発生を減らす）

リユース（繰り返し使う）

リサイクル（資源として再利用する）

ようにしましょう。



3 海に関心を持って学びましょう！

海で遊んでみることはもちろん、海のことが学べる資料館へ足を運んでみましょう。新しい発見があり、きっと海のことがもっと好きになります。



4 新しいアイデアを発見しましょう！

自然に優しいプラスチックの発明、海を漂うごみを回収する新しい方法を発見するなど、世界中の人々がたくさんのアイデアを出し合って海がキレイになるように研究を続けています。みんなも新しいアイデアの発見にチャレンジしましょう。



5 みんなに教えてあげよう！

海はとても美しく魅力がいっぱい。でも、海洋ごみなどの課題もたくさんあります。ぜひお父さんやお母さん、友だちにも学んだ海のことを教えてあげましょう。



教えてあげてね！

どれから始めてもいいんじょ

これなら私にもできそうだわ



6 ごみ拾いイベントに参加しよう！

ぜひ、友だちを誘って一緒にごみ拾いイベントに参加してみましょう。徳島県内でも各地でごみ拾い活動をしている団体がいくつもあります。近くでイベントがないか調べてみましょう。少しずつ美しくなる海の様子を見るととても気持ちが良いですよ。



世界の取り組み

『大阪ブルー・オーシャン・ビジョン』

2019年6月に開催されたG20大阪サミットにおいて、日本は2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提案し、首脳間で共有されました。他の国や国際機関等にもビジョンの共有を呼びかけ、多くの国々が共有しています。

国の取り組み

『海洋環境整備船』 国土交通省四国地方整備局所属

小松島市を拠点に、徳島県周辺の海面浮遊物（海洋ごみ）を回収する船です。航行の安全を守るために海をパトロールしています。



SDGs (エスディー・ジーズ)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

海洋ごみを減らし美しい海を受け継ぐためには、広い視野で物事に取り組まなくてはなりません。海洋ごみに関係する、世界共通の目標を確認してみましょう。



さあ 海岸へ行ってみよう!

海洋ごみを知るためには、海岸へ行ってみるのが一番!
早速準備をしてみましょう。

トングとごみ袋

見つけたごみや気になった宝物は、ひとまずごみ袋に入れて、あとで処分する物と持ち帰るものを仕分けしましょう。

軍手

ケガをしないように軍手をつけましょう。

動きやすい服

汚れても良い服を着ましょう。

水筒

夢中になって汗をかくので水分を取りましょう。

くつ

履きなれたくつを履きましょう。サンダルはケガの原因になるのでやめましょう。

ぼうし帽子

熱中症を防ぐため帽子を被りましょう。

ほかにもあると便利だよ

筆記用具

ごみ拾いをした記録や気が付いたことを書き残しましょう。

タオル

汗をこまめにふきましょう。

カメラ

海岸やごみ拾いの様子など気になったものを写してみましょう。

ずかん

持ち運びができるずかんがあれば、気になった貝殻などすぐに調べることができます。

このスタイルがオススメなんじゃ



おおなる と きょうかきょうき ねんかん
大鳴門橋架橋記念館エディ

ちどり が はまかいが
千鳥ヶ浜海岸

なる と し
鳴門市

いた の ちよう
板野町

とくしまけん
徳島県子ども科学館

まつしげちよう
松茂町

つき み が おかかいすいよくじよう
月見ヶ丘海水浴場

こ まつ かいが
小松海岸

とくしま し
徳島市

とくしまけんりつはくぶつかん
徳島県立博物館

おお み こ かいが
大神子海岸

かないそ かいが
金磯海岸

こまつし まし
小松島市

あなんし
阿南市

きた わき かいが
北の脇海岸

た い の はまかいすいよくじよう
田井ノ浜海水浴場

み なみちよう
美波町

ひわ さ
日和佐うみがめ
はくぶつかん
博物館カレッタ

おおほま かいが
大浜海岸

む ぎちよう
牟岐町

しりようかん
貝の資料館

もらすこむぎ
モラスコむぎ

うちづま かいが
内妻海岸

おおすな かいすいよくじよう
大砂海水浴場

かいようちよう
海陽町

かいよう し ぜんはくぶつかん
海洋自然博物館マリンジヤム

- オススメの海岸
- 海について勉強ができる場所

気をつけること!



1 大人と一緒にいきましょう

子どもだけで行ってはいけません。必ず先生や家族と一緒にいきましょう。



2 天気が悪い日には行かない

天気が悪い日は風や波が強くなります。また、晴れていても台風の前後は大きな波が得意やすいので気をつけましょう。



3 危ないところに近づかない

岩場やテトラポッドは滑りやすく、転ぶとケガをしたり、海に落ちたりするかもしれないので近づかないようにしましょう。



4 ごみが海に落ちたら諦める

もし、ごみが風で飛ばされて海に落ちてしまったら、拾いに行ってもいいけません。溺れてしまうことがあります。



5 見れないものにはさわらない

ごみの中には注射器など先がとがったものや、何が入っているかわからない容器など危険なごみがあります。また、例えば、カツオノエボシなど毒を持つ危険な生き物が打ち上がっていることもあります。見れないものにはさわらず大人の人に声をかけましょう。

カツオノエボシ



Q 拾ったごみはどうすればいいの?

A. 拾ったごみは市町村のルールで処分しましょう



ビーチアートを楽しもう!

海岸で拾った海洋ごみにちょっと手を加えればアートに早変わり。貝殻やビーチグラスも使って世界に一つだけのオリジナル作品を作ってみましょう。

りゅうはく
流木ペン



ビーチグラスの
ランプシェード



たから さが き ろく のこ
宝探しの記録を残そう

いっしょ
一緒にごみを拾って海
をキレイにするんじょ

たから さが かい がん
宝探しをした海岸

たから さが
宝探しをした人

たから さが
宝探しをした日 年 月 日 天気

たからもの
ステキな宝物を
見つけたかも



たから かい よう しゅ るい
見つけた宝や海洋ごみの種類

かい かん
感想

かい かん のこ
絵や写真で思い出を残そう

かい よう へ じ ぶん なに せん げん
海洋ごみを減らすために自分で何ができるか宣言しよう!

令和5年2月発行

企画・発行 徳島県 危機管理環境部 環境指導課

監修 徳島県環境アドバイザー 石井 友規

画像提供 徳島県観光協会

海陽町

国土交通省 四国地方整備局

濱 直大

山本 真綺

製作・編集 株式会社丸菱

ニタコンサルタント株式会社



徳島県海岸漂着物等（海洋ごみ）ポータルサイト

徳島県海洋ごみ

検索



<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/recycling/7210929/>